

平成 26 年 3 月 14 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (3/14 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	14.7 °C	103.2 kPa abs	A系： 0.03 vol%
		給水系：約 2.3 m ³ /h			B系： 0.02 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.5 m ³ /h	23.8 °C	5.63 kPa g	A系： 0.07 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.06 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.5 m ³ /h	22.1 °C	0.23 kPa g	A系： 0.09 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.08 vol%

*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (3/14 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	停止中*1	12.0 °C*2
2号機	循環冷却システム	運転中	12.1 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	20.8 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	14.2 °C

※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

*1 運転中と記載しておりましたが、停止中の誤りでした。(H26/3/14 訂正)

*2 代替冷却システム停止中であったため、停止時のプール水温度を記載。(H26/3/14 追記)

・H25/11/18 15:18～ 4号機使用済燃料プールから燃料を取り出す作業を実施中。

・H26/2/26～ 3号機使用済燃料プール代替冷却系の二次系冷却塔のろ過水による散布水停止の影響調査を実施中(プール冷却は継続中)。

・H26/3/14 6:48～3/24(予定) 1号機使用済燃料プール代替冷却系について、1, 2号機排気筒の落下物に対する防護対策の実施に伴い停止(停止時プール水温度:12.0°C)。なお、冷却停止時のプール水温度上昇率評価値は0.066°C/hで停止中のプール水温上昇は約16.5°Cと評価されることから、運転上の制限値60°Cに対して余裕があり、使用済燃料プール水温度の管理上問題なし。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	3/8 10:05 ～ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物 減容処理建屋 [高温焼却炉建屋])	3/12 15:48 ～ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (3/14 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中	停止中*1	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

- ・H26/3/9 10:25 淡水化装置No.3(逆浸透膜式)マルチメディアフィルタ*付近の堰内において、水溜まりがあることを当社社員が発見。水溜まりの範囲は約0.5m×約2.5m×深さ約1mmで、同装置の堰内にとどまっており、建屋(ジャバラハウス)外への流出はない。念のため、同日10:39に装置を停止。

溜まり水表面の線量を測定した結果は以下のとおり。

- 70 μ m 線量当量率(ベータ線):1.4mSv/h
- 1cm 線量当量率(ガンマ線):0.1mSv/h

また、水のない床表面の線量は以下のとおり。

- 70 μ m 線量当量率(ベータ線):3.35~3.40mSv/h
- 1cm 線量当量率(ガンマ線):0.1~0.15mSv/h

溜まり水の主な核種の分析結果

<溜まり水の分析結果>

- ・セシウム134:検出限界値未満(検出限界値: 2.4×10^2 Bq/L)
- ・セシウム137: 2.2×10^2 Bq/L
- ・全ベータ: 2.3×10^7 Bq/L

<参考:2/11採取の淡水化装置入口水の分析結果(3/4公表)>

- ・セシウム134:検出限界値未満(検出限界値: 8.6×10^2 Bq/L)
- ・セシウム137: 1.7×10^3 Bq/L
- ・全ベータ: 2.8×10^7 Bq/L

その後、3/10、11に同装置マルチメディアフィルタ(No.1、No.2、No.3)について通水確認を実施し、漏えいが無いことを確認。

また、マルチメディアフィルタ上部の防凍シートの部分に雨水が溜まる可能性があることを確認。

さらに、水溜まり発生箇所近傍の床面に水を撒き、回収した水をサンプリングした結果、3月9日に発生した水溜まり水の値に近い放射能濃度であることを確認。

以上の確認結果から、水溜まりの原因は、ハウス内に侵入した雨水、または同装置マルチメディアフィルタ表面等の結露水が床に滴下したものと推定。また、水溜まり水は床に付着していた粉塵等により汚染した可能性があるかと推定。なお、淡水化装置No.3(逆浸透膜式)については、3/13 14:40から水処理を再開。

*マルチメディアフィルタ……逆浸透膜のつまり防止のために逆浸透膜の前段に取り付けられたフィルタ

- ・3/14 14:17 第二セシウム吸着装置(サリー)の空気作動弁の駆動用空気供給ラインを、信頼性向上の観点から既設の樹脂製チューブを銅製チューブへ交換する作業が終了したため、第二セシウム吸着装置(サリー)を再起動(15:05定常流量到達)。なお、同日9:04第二セシウム吸着装置(サリー)の再起動に先んじて、セシウム吸着装置を停止。

<5. その他>

- ・H26/3/14 13:35~共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。(開始時間を訂正しました H26/3/14 訂正)
- ・H26/1/29~ 凍結管を設置するための削孔については、掘りあがった温度測定用の孔にカメラを挿入して、トレンチ内部状況を再度、慎重に確認したうえで削孔開始することとしていたが、トレンチ内部の状況が確認できたことから、凍結管を設置するための削孔を実施中。
- ・H26/2/24 6号機残留熱除去系A系(非常時熱負荷運転中)の系統水の一部が圧力抑制室に流れていることを確認。漏えい箇所を調査したところ、残留熱除去系ポンプ吸込ライン(A系、B系共通ライン)に設置されている安全弁から系統水が流れ込んでいる可能性が高いことを確認。3/13から当該安全弁(F-005)の点検を実施中。
- ・H26/3/14 11:15 1号機タービン建屋1階通路南側付近において、約2m×約10m範囲の水たまりがあること、また、天井から水が壁を伝って流れ込んでいることを当社社員が確認。現在、現場の状況を確認しており、屋外への漏えいは確認されていない。今後、当該箇所にたまっている水の分析を実施する。その後、現場確認を行ったところ、タービン建屋と原子炉建屋間に水が流入していることを確認。また、たまり水の分析結果は以下の通りであり、建屋内滞留水の分析結果(1,000,000~10,000,000 Bq/Lオーダー)と比較して十分低い値であることを確認。このことから、当該箇所の水たまりについては、雨水であると判断している。
<当該たまり水の分析結果:3/14採取分>
 - ・セシウム134:17,000 Bq/L
 - ・セシウム137:49,000 Bq/Lなお、昨日(3/13)の雨の影響により、天井部からの水の流入については、幅約5mで断続的に発生している。(日時を訂正しました H26/3/14 訂正)

【H4エリアタンク等からの水の漏えい関連】

<トピックス>

・H25/12/10～ 汚染水拡散の防止策として、H4エリア周辺に設置したウェルポイントから地下水の汲み上げを再開。

<タンクエリアパトロール実績(3/13)>

- ・高線量当量率箇所(β線による70μm線量当量率)は確認されず。
- ・堰床部に雨水が溜まった箇所については、雨水による遮へい効果により線量当量率は低い状態となっている。
- ・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと(漏えい確認ができない堰内溜まり水内を除く)を確認。
- ・汚染水タンク水位計による常時監視で、タンク水位に異常がないことを確認。

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<トピックス>

- ・1,2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は3/14 0:00時点で約8,915m³ *集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・3/11に採取した1～4号機タービン建屋東側の地下水観測孔No.2-6のセシウム134およびセシウム137の測定結果が前回値(3/6採取分)に比べて高かったことから、3/12に再採取および分析を行ったところ、上昇前の値に戻っていることを確認。

<地下水観測孔No.2-6の測定結果:3/12採取分>

()内の数値は、3/11採取分の前回値

・セシウム134 : 検出限界値未満[検出限界値:0.41 Bq/L] (17 Bq/L(お知らせ済))

・セシウム137 : 検出限界値未満[検出限界値:0.51 Bq/L] (50 Bq/L(お知らせ済))

上昇した原因としては、微量な懸濁物の混入があったものと推定。

- ・その他の結果については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<移送関係>

- ・2,3号機東側に設置したウェルポイント(バキュームによる強制的な排水設備)からの地下水汲み上げおよび2号機タービン建屋への移送を適宜実施中。
- ・H25/12/11～ 1,2号機間護岸エリア地下水観測孔No.0-3-2でトリチウムが検出されていることから、当該観測孔からの地下水の汲み上げを試験的に適宜実施中。
- ・H26/1/29～ 1,2号機間護岸エリア地下水観測孔No.1-16で高い濃度の全ベータが検出されていることから、当該観測孔近傍に設置した地下水汲み上げ用の孔(No.1-16(P))からの地下水の汲み上げを適宜実施中。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<トピックス>

・H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。

・H25/10/3～ 地下貯水槽No.1の汚染範囲調査開始。

・H26/1/30～ 地下貯水槽No.1～3における貯水槽内部の残水について、H1東エリアタンクへの移送を適宜実施。

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以 上